



鮮やかなひな祭り展が 開催されました！

令和六年三月一日（金）から三月三日（日）まで佐倉市シルバー人材センターワークプラザ二階にて美しいひな祭り展が開催されました。日本の伝統文化を楽しむ素晴らしいイベントとなりました。



会員の皆様にはご協力ありがとうございました。会場には、華やかなひな人形が美しく並べられていました。一、二回目と飾られました。内裏雛や三人官女や五人囃子と色鮮やかに来場者を迎えました。

毎年階段で竹の部屋から迎えてくれる小さなひな人形たち



古いと勘違いされる手描きの屏風



そして目の前には真っ赤な毛氈の一面に内裏雛がずらりと並びます。入られた瞬間歓声が聞こえてくるようでした。



来場者をお迎えする 見事な内裏雛

内裏雛は毎年終わりましたらシルバーの倉庫に保存します。一年ぶりに会う内裏雛を飾りながら今年もたくさんの方に見てもらえたらいいわねと思いつながら並べています。一体一体の美しい顔の内裏雛は、日本の伝統的な雛人形で、美しさと繊細さが際立っています。頭飾りや装飾は、魔除けや尊さを表す意味を持ち、雛祭りを彩る重要な要素です。今年の来場者は実に記載された方だけでも二百四十六名となりました。年々認知度が上がる嬉しい瞬間でした。

ひな祭りを終えて

- ★ 音楽が流れるモニターがひな祭りの雰囲気を盛り上げ、一列に並んだ内裏雛が皆さんの目を楽しませていたと思います。古いお雛様、手作り人形、お花で表したお雛様も人気で皆さん熱心に見ていらっしゃいました。見にいらして下さった皆様ありがとうございました。（尾利出）
- ★ 当日、多くの方々に観ていただきましたので、雛達は輝いて見えました。不思議でした。（難波）
- ★ 今年で三回目の雛祭り展を迎えるにあたって何か新しい企画をと言うことで人生百年時代に因んで白髪の百歳雛を作りました。百歳雛はご存じない方も多く沢山の方が興味を持ってくださいました。（野崎）
- ★ 三回目を迎えたひな祭り展、今回は初めて休日を入れましたが、沢山の方に来ていただけてとてもうれしく思います。また佐倉市民の皆さんはもちろんのこと四街道市シルバー人材センターの女性部会の方々も来てくださり、こうして近隣のシルバー人材センターの方々と交流が持てることがとてもうれしかったです。また 手作りの内裏雛も持ってきてくださいました（辰巳）

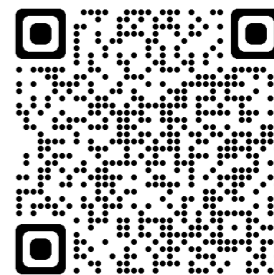


四街道市シルバー人材センター
女性部会

女性部会だより（シルボンヌさくら）に、掲載してほしいアイデアがございましたら、どうぞ気軽に申し付けくださいませ。女性部会で検討し、ご期待に沿えるよう頑張ります。

問い合わせ先（輝くシルボンヌ推薦先）掲載申し込み先；Tel 043-486-5482（上原）
メール t.uehara@sakura-sjc.or.jp

編集元 女性部会、シルボンヌさくら
〒270-0292 佐倉市シルバー人材センター
Tel 043-486-5482 Fax: 043-486-5419



人気を占めた 手作りの人形たち

今回人気が最もあったのは
女性部会委員の野崎ちづ子
さんの創作人形です。
一つのコーナーで手作り人形
を陳列しました。 来場者の
皆さんはそこで立ち止まり感
嘆と驚きで観賞されていまし
た。



野崎さんには昨年の干支兔の
人形も飾っていただきまし
た。また今年もかわいらしい
うさぎの内裏雛が並びまし
た。

ひな祭り 盛り立てた作品の数々

いちばん最初に挙げられるアイ
ディア豊富な生け花です。
ひな祭りの生け花は毎年作って
いただいております。一回二回のひ
な祭り用の花もアイディアたっ
ぷりのお雛様の生け花でしたが今回
はさらに面白く内裏雛はチュリ
ップ、三人官女はピンクの椿三本
そして五人囃子はバラの花となん
とここにもひな祭りと感じまし
た。来場者の皆さんも可愛い雛飾
りの生け花に感心し、喜んでくだ
さいました。



西田三十五市長も来場され
ひな祭りを楽しみながら、
手作りの人形に感心され、
野崎さんの制作過程の説明
を熱心に聞いていらっしや
いました。



また 陳列された人形たち
が喜んで迎えたかわいらし
いお雛様の登場により会場
が華やかになりました。



今年から始まった紫
式部の生涯に合わせ
て「ひな祭り」と源氏
物語という詩絵を完
成。展示会が終わっ
たら、これを欲しい
と言ってくくださった
方にお渡ししまし
た。また ひな祭り
を詠った有名歌人四
名の歌人の詩を紹介
しました。
与謝蕪村、松尾芭蕉
夏目漱石、正岡子規
左の和歌は
「雛祭る 節供にな
りて 春の雪」
正岡子規です



中央を飾るひな祭りの 大御所がずらりと

毎回来てくださるリピーターの
方々も初めての来場者もこの中央
に飾られるひな人形に感動し素晴
らしいですねと他では見られない
内裏雛たちですと感想をいただい
ています。最初に目につくのはA
4サイズの用紙ぐらいの小さな七
段飾りのお雛様。お母さまが生ま
れたとき大正三年の時のお雛様で
す。 「森岡家所蔵」



ひな人形は明治二十八年のもの
と思われる。小ぶりの人形で当時の
写真と共に展示していただきまし
た。 「富村家所蔵」



今回初めての試みとしてノートパソ
コンとモニターを使ってひな人形に
必要な屏風絵を動画を作成して音楽
とともに流しました。



いろいろな新しいものを加えて前回
と一味違ったひな祭り展が出来たら
いいなと女性部会委員一同工夫して
みました。

百歳雛の 登場

今回の一番の展示作品は百歳雛
です。意外と知られてないお雛様で
す。

大正初期のお雛様です。衣装が現代と
は違い また体の中は藁できていま
す。 「佐倉市民」



そしてこのひな祭り展で最も古い内裏
雛です。江戸時代末期のものと思われ
るそうです。男雛は東帯、女雛は宝冠
かぶり豪華で重厚な 衣装と神秘的な面
差しが気品に満ちていました。来場者
もひな人形に素晴らしいの一言 真剣
に見つめていらっしやいました。



ももとせひな
百歳雛はともに白髪となったお
めでたい人形で江戸時代から健康と
長寿を祝う人形とされてきました。
現在は還暦や米寿のお祝いとして喜
ばれるだけでなく、「後の雛（のちの
ひな）」という風習でも飾られます。
このことを知り委員の野崎さんに急
遽お願いしました。彼女がよく使う
「いやだいやだ」の言葉も無視し作
っていたいただきました。作る工程と出
来上がった内裏雛、百歳雛と言われ
るようなまさに優しい顔のお雛さま
でした。



Momotosehina
by Chiduko.